

診断

理事長 田中 稔

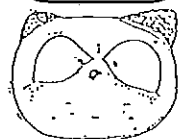
この数カ月間に同じような思春期の子供さんの問題行動について相談をうけました。

一例目は「動かなくなつた。一日中寝てばかりいる。入院させたところ益々動かなくなつた。」

二例目は「近所の家に無断で上がり込む様になり、付き合いがおかしくなり立ち退きをせまられ転居を検討している。」

三例目は「思春期になつて突然パニックを起こす様になり、他人の家の風呂に入つて騒いでいた。」というものです。

いずれの場合も自閉症の特徴的な症状を示していると思ひます。保護者の方とお話しをしますと、いくつかの共通点がある事に気づ



NO-65

H4.11.1

-発行-

〒869-12

熊本県菊池郡

大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

TEL096

293-8100

きます。「自分の子供は自閉症の診断は受けていますが、普通学級、特殊学級に通える程度で軽いと思ひます。これまで良く育つていたのですが、急にこんなになつて訳が分からないのです。」「何かストレスになる様な事や心に悩みでもあるのでしょうか？こんな状態はいつまで続くのでしょうか？」と頭を抱えておられます。

これらの保護者の方はどこで誰から子供さんが自閉症児ですという診断を受けられたのか分かりませんが、自閉症というものを全く理解されてはいないし、驚く程知らされていません。

自閉症の診断基準は症状診断です。子供さんが示す症状、行動が基準に当てはまるかどうかで行なわれていきます。従つて、少し障害

児学をかじつた人ならば診断そのものはそう難しく有りません。

それでは医療の世界でいう診断という行為とはどの様なものでしょうか。診断とは単に病名を決める作業ではありません。病名をつけるのであればつける人自身、その病氣(障害)について自分なりの理解、対処法、予後といったものをもつて頂きたいと思ひます。

自閉症の様なまだ分からない事多い障害では色々の考え方や対処法があつても仕方がありません。

今、医学界では脳死、癌等との関係で患者さん方への説明という事が大きな問題になつています。診断をするのであれば、その人なりのものを責任をもつて説明をすべきです。診断すれども療育できずでは困ります。

三例に対して薬だ、注射だというワンパターンの対処法がなされていきます。いつまで私達親と子はこの様な状況に置かれ続けるのでしょうか。

療育シリーズ

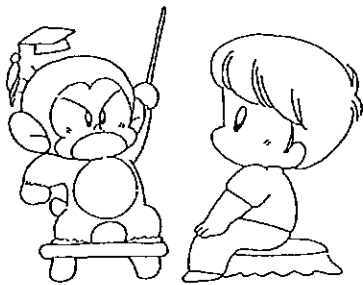
話し合い

園長 土井尚典

指導員が園生を一時間近くも説教している。叱っているというより説教である。「大人として恥づかしくないか。」「いいかげんにしつかりせよ。」「いつまでそんなことしているんだ。」「自分を大切にせよ。」「人生は厳しいんだぞ。」「などなど本来の叱っている問題点より生き方を説いている。園生は分かっているのか「ウン、ウン。」と頷いている。園生の顔はだんだんと落ち着いて来ている。「んなら、作業頑張ろうかね。」と言うと園生は素直に作業に戻った。

園生が指示に従わないときに、本来なら園生と話し合いをし、何故やらなければならないかを分からせる必要がある。しかし、園生は話し合いをする力を（能力）をもっていない。そこで、いきおい

職員のほうが強く出てしまうのである。言葉が分からなくても、こんな難しい話をしても分からないだろうと思わず、話し掛けてみる。と案外理解してくれることが多い。職員は作業指導でも日常生活でもたくさんさんの指示を出している。園生は本当に納得して指示に従っているだろうか？指示に従わせる技術、指示に従わないときの指導の仕方、パニックのときの対応などいろいろな療育技法を使っているが本当にそれでよいのだろうか？園生には指導したいことが山ほどあるが、何を大事に育てて行かなければならないのかいつも考えさせられる。



ある園生が、保護者の迎えが少し遅くなったのでイライラして、自分の顔をたたいていた。声掛けで止めさせると、すーっといなくなって、舞い戻って来たときは、また顔をたたいていた。他の方法で止めさせた方が良かったかもと考えたが、説教することにした。「顔をたたいているけど、その顔は誰の顔ネ。」「ワタシノ。」「自分でたたくのは疲れるだろう。代わりにたたいてやろうか。」「タタカン。」「あなただけの顔じゃないだろう。お父さんお母さんから貰った顔だろう。」「ワタシノ顔ジャナカ。」「自分ば大切にせよ。」「等と、くどくど説教でした。だんだんまじめに聞いているのが感じられて来た。ながーい説教の後はずきりした顔であった。遅れてお母さんが来られて一緒に車の方に行く時は、また顔をたたいていた。「うーん、そう甘くはないな。」と感じながらも、園生を一人の人間として話をしていく喜

びを感じた。

園生の指導で「対峙する」ことの大切さを職員と常々話している。園生と問題点でしっかりと向き合っ
て対決していき、問題点を納得する
まで対峙の姿勢を崩さないこと
である。しかし、「話し合いのこ
ころ」が必要に思う。



運動会△云 part 2

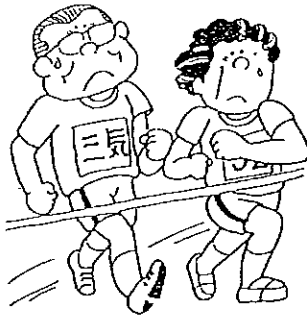
林 千莎子

九月二十日(日)、第二回菊池・阿蘇ブロック愛護の体育大会が、高森町山村広場で行われました。幸い、お天気には恵まれましたが、さすがに阿蘇はもう肌寒いなど感じました。

会場に到着するのが遅れたので、入場行進と我が子の競技を見逃してしまい残念でしたが、園生はその子に合った競技に出場してマイペースで頑張っていました。親の方は、せめて応援で盛り上げようと、どの園にも負けない勢いでした。

私は去年も参加しましたが、今年も園生も場慣れしたのか(?)、みんな落ち着いていたような気がしました。とつても笑顔がよかったですと思いました。

最後に、ボランティアの方々、大変お世話になりました。



食堂当番菜采中

夕方になると、真の厨房職員の如く、欠かさず必ずお手伝いに来てくれる人がいる。泰成君だ。毎日、山の様に積まれたお盆をサツと洗い拭いてくれる。どうやら彼は神経質らしく、お盆洗いの途中、下に落ちた胡瓜の切れ端などを目ざとく見つけて拾うのが玉にキズ。それでも最近では行動範囲が広くなり、他に食器の洗浄、さらに物足りないのか、なんと最後の生ゴミ捨てに至るまで手伝ってくれる。「もういいよ。」と言っても彼は、厨房での後片付けを一通りこなす事に意義がある様だ。何が彼をそうさせているのかとても不思議だが、毎日とっても助かっています。ありがとうございます。これからもヨロシクね。



前田

外作業班 食いしん坊はだれ？

ある晴れた秋の日、外作業班担当の東指導員と平川指導員は、「11月の作品展に何を出そうか・・・」と頭を痛めておりました。畑に種をまくには日にちが少ないし、お裁縫なんかも得意じゃないし・・・。そんなとき、ふっと振り返ると1本の柿の木が「私の実を採って」と言わんばかりに目の中に飛び込んで来ました。「こりゃあ、干し柿ばつくらにゃん」と早速みんなを引き連れて柿ちぎりを始めました。採った柿は枝を切りそろえ、ヘタを取りきれいにふいて皮をむきました。それを縄につけて干して、さあ後はできあがりを楽しみに待つばかり。柿を干したアイデアルームは、何とも言えないのどかな雰囲気になりました。

さて、このごろの外作業班の話題と言えば、梅干しに栗に干し柿と食べ物のことが多いのですが言い出しっぺはいつも私、平川指導員。みんなもちろん食いしん坊だけど、私はそれの上に行く食いしん坊だなあとつくづく思う食欲の秋・・・・・・・・。

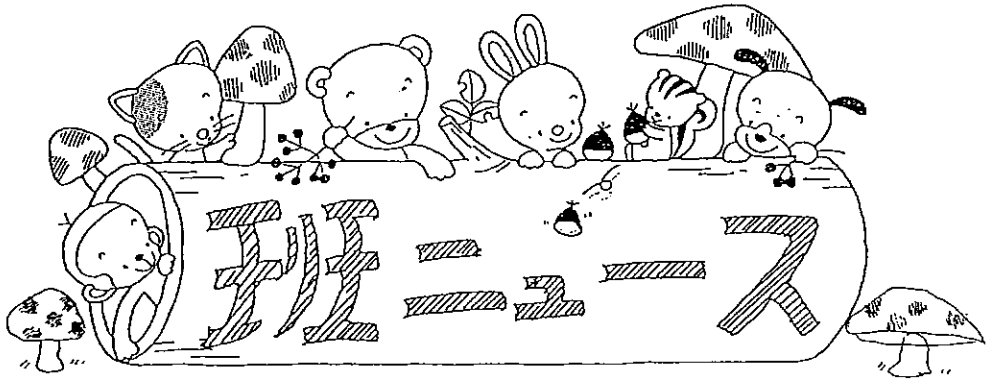
平川

3班 秋の野辺

久し振りに3班皆で散歩にでた。すっかり稲刈りのすんだ農道をのんびりと歩く。「今日はどっちにいこうかなあ」とその時だった。右の民家から二匹の茶色の犬が尾を振りながらこちらの方に近付いてきた。「うわ〜。」「あっちへ行け〜。」と、同時に声を出したのがマコちゃんとマーくん。「待って。」という声も届かず、ひたすらもと来た道をかけ戻っていく。それにつられる様にして残りの九人も戻り出す。中にはやはり犬が怖くて顔色を変えている園生もいた。「もう、帰ってこんねー。」こちらは一人である。逃げ出した二人を追うにも、残りの九人をおいて走り出す訳にもいかず、只オロオロと慌てながら叫ぶだけだった。とにかいたんぼのあぜ道に九人を座るように促し、それから二人を目で追った。園に向かってダッーと走る二人の後を尾を振りながらにこやかについて行く二匹の犬。振り返り振り返りしながら大声を出して走り、そして、あれよという間に遠く木工室まで戻ってしまった。「もう、おやつ食べんとね〜。」と口の中でブツブツと繰り返しながらも木工室にある板の上の方まで上って必死になっている様子がとてもおかしく見えて思わず大声で笑ってしまった。「おやつよ〜。」と二、三人で呼びながらも笑いがこみあげてきて、いつまでもいつまでも笑ってしまった。

川沿いの土手の木や草は少し色ずいて、すすきの穂が川面にうった光を反射して銀色に照り輝いているそんな景色の中を「おやつよ〜。」の声につられて舞戻って来る二人の影が遮った。

坂本



1 班 乞う御期待！

我1班では、現在、ねぎ・からつ菜・さつまいもを、他の班と比べて少し小さめの畑で育てています。週一回の畑作業では種蒔きグループと草取りグループに分かれ、おいしい野菜ができるようにと、全員で一所懸命…とは言えなくても、自分達なりに頑張っています。その苦勞が(?)実ったのか、この前収穫した、こまつ菜・白かぶは、厨房さんが調理して下さり、「おいしかった。」となかなかの評判。また、さつまいもはボリュームも味も満点、お母さん達からも「おいしそう。」と買って頂きました。(ありがとうございました)きっとおいしい料理になって、みんなの食卓に並んだことでしょう。

このように私達のいとしい野菜は、園で家庭で、活躍(?)しています。次回は、さつまいもを収穫する予定です。乞う御期待！！

津江

4 班 遅い、秋のある日

過日、仕事の休みをもらって実家の稲刈りと脱穀の手伝いにそれぞれ行ってきました。最近人手不足の為か機械化も随分と進みコンバインなるもので刈り取りと同時に脱穀も済みカントリーに持ち込めば乾燥も機械でしてもらえるとのこと。しかし実家では「天日で干した方が米がおいしくなるから」と言って一度刈り取った稲を竹を組んで2週間程干してそのうち脱穀するという手間をかけてやっています。(決して機械化を批判するものではありません)手伝いをしながら、ヘー親父の背中ってこんなだったっけ！かあちゃん白髪増えたなあーなどと思いつつ、帰る所があるってことはやっぱりいいなあー(かなりこき使われたが)としみじみ思いました。

まだ夏のように暑いある日、キャベツ畑で楽しそうに舞う蝶をポーッと見ながら、三気の里の保護者の皆さんの頑張りに改めて感謝するとともにこれから元気に頑張ってください(私の両親に対しての分も含めて)とエールを送っていた私でした。

内容が私事で班ニュースと掛け離れている事をお許し下さい。

木下

2班 実りの秋

食欲の秋、芸術の秋、そして実りの秋。我が2班も、今まで大切に大切に育ててきたものが、ぐんぐん大きく大きくなって花が咲き、今やっとう実がつこうとしています。今年一番大きな実になったもの…それは“やればできる”、ということ。旅行に行けたし、その自信がいろいろな事へとつながって行きました。作業では、体力勝負だった人達が今では、JTニフコさんの下請け（パッキンはめ、手もぎ作業）をできるまでになりました。今やっている作業は、みなさんも良くご存じのもの“自動車”の部品となるのです。細かな作業ですが、みんなとても上手です。鬼のような指導員の怒鳴り声も、あまり聞かれなくなり、みんなホッとしているようです。みんなの働いてる姿、とてもりりしいですよ。一度覗いてみませんか？

清田

研修修報告日

橋本加代子

全国自閉症者施設連絡協議会が9月17日から18日まで富山県で開催された折、その最終日に、うさか寮を見学させて頂きました。

うさか寮に着きまず目に入ったのが広大な梨園。“おいしそう”と梨を見ながら歩いて行くと、素敵な建物がいくつも目に入ってきました。職員の方の説明を聞きながら、建物を見せて頂いたのですが、紙すきや漆塗り・織物・木工等の一つ一つの作業が、独立した建物、空間の中で行われているのにはびっくりしました。また、いろいろな作業が少人数で行われ、TEACCHプログラム等も導入されていました。

同じ敷地内に建てられた生活ホームも、個人を尊重した作りになっており、うさか寮では、生活・作業共に一人一人を大切にされているなあと感じました。



全国愛護研修

金丸綾子

先月、9月24～26日にわたって全国精神薄弱施設職員研究大会が、島根県で開催されました。24日は全体発表とシンポジウムが行われ、25日には15の分科会に分かれ、テーマ毎に発表と討議がありました。私が出席した分科会は「施設における健康管理・保健・医療」で発表では週休二日制導入にあたっての対策で、実施してのメニューの変更、勤務状態、工夫などがあり各施設からの意見を聞くことが出来、とても勉強になりました。しかし今後増えるであろう週休二日制導入は、まだ沢山の課題をかかえていて、これからだなという感じがしました。初めての県外の大きな研修に参加し、とても有意義な研修を過ごす事ができました。



ぼらんていあ通信

先日、10月25日にボランテイヤ
学習会として山登り（八方ヶ岳）
を行いました。今回は、園生13名

ボランテイヤさん4名、職員5名
の計22名で登りました。登りが急
で登りたがらず、泣き出す人がい
ましたが、ボランテイヤさん達の
元気な励ましの声により（思わず、
職員かな？！と振り返ったほどで
す）全員無事、頂上までたどり着
くことが出来ました。

色々なハプニングもありまし
たが、久しぶりに気持ち良い汗をか
き、皆んな紅葉の秋を満喫してい
ました。ボランテイヤさん御苦労
様でした。又、一緒に登りましよ
う。



山中

《ボランテイヤありがとう》

☆散髪

坂本シマコ

☆清掃

遠山一恵 古閑ゆきこ 古閑知子

☆ボランテイヤ学習会

高本尚美 長野法子 宮村和美

小坂睦美

☆一日ボランテイヤ

森藤雅子

デンタル通信

森 隆子



ブラッシング指導を始めて、四
年目。やっと定着しつつあるので
はないかと思えます。勤務先の歯
科医院での治療を始めて一年にな
りますが、慣れた頃には次の人の
治療に代わり、院長はじめスタッ
フ一同、悪戦苦闘の日々です。
ブラッシング指導をする事で各
々の性格、個性を知ることが出来、
治療のときプラスになっているよ
うな気がします。彼だったら「こ

こまでは頑張れるかな」と予測し
て治療をします。彼らは相手を見
抜く事ができると聞いています。
甘く見られないよう、ちょっぴり
強気になってやっています。（無
理をしてしまうこともあります
；）終わって帰りの後ろ姿を見て
は、「出来たい。」「よく頑張っ
たネ。」の繰り返し。引きつった
顔がとても印象的です。他の障害
者の方が来られた時、ここまで出
来るだろうか、ふと不安になる
今日この頃です。

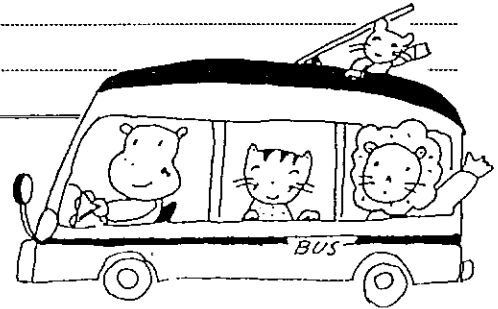
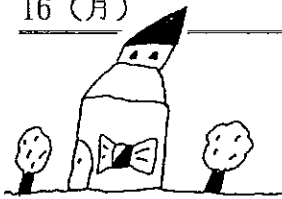


お礼

熊本セントラル病院の大塚良子
様よりフルートコンサートのチケッ
トをいただきました。職員・園生
共に楽しませていただきました。
ありがとうございます。

1 1月の行事予定

1(日)	17(火)
2(月)	18(水)
3(火) ㊦	19(木) 1班、外作業班レク
4(水) 体重測定	20(金) 愛護作品展示会
5(木) 2班レク	21(土) シーツ交換 療育相談日
6(金)	22(日)
7(土) シーツ交換 療育相談日	23(月) ㊦
8(日)	24(火)
9(月)	25(水)
10(火)	26(木) 3班レク
11(水)	27(金) 大掃除
12(木) 4班レク 誕生会	28(土) ㊦帰宅バス運行
13(金)	29(日)
14(土) 帰宅日 父兄会	30(月)
15(日) 防災訓練	
16(月)	



退職

田邊由美子

退職することを決めてから、よく5年前のことを思い出すのです。就職の面接を受けた後、偶然にも街で現在の事務職員の多田さんに会い、「お互い受かるといいですね。」と言葉をかわしたことなく色々。それから、5年の間に私に何が出来たのだろうかと問うこともあります。久しぶりに三気の里に行くと、園生の反応は様々で、来たとなん「バイバイ。」と言われることも。でも、そんな彼らが大好きです。

この5年間、未熟な私を先生と呼び親しくしていただいた方々に感謝します。ありがとうございました。

編集後記

芸術・スポーツの秋と考えている私の横で男性職員がぼつり「天高く我肥える秋だろう。」横目で睨みながら編集は続きます。山中